

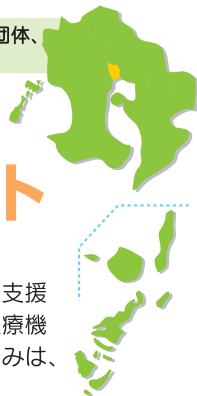


「地域福祉第一線」では、さまざまな地域福祉活動に先駆的に取り組む市町村社協や団体、または人物などを取り上げ、その活動を紹介します。

わたしたちの“まちづくり” 住民参画による地域支援ネット

～加治木町萩原地区 加治木たすけあい実行委員会～

小規模通所介護事業所が発起した、住民の共生・協働による住民参加型支援ネット『加治木たすけあい実行委員会』一平成20年度独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」の助成を活用して実施されたこの取り組みは、誰もが最期まで安心して暮らせる地域づくりの第一歩となりました。



地域づくりへのアプローチ

加治木町立柁城小学校近くの萩原地区は、歴史ある元城下町の閑静な住宅街です。認知症の高齢者が集う小規模通所介護事業所『共生ホームよかあんべ』は、この地に2年前開所しました。代表の黒岩尚文さんは、「高齢者が在宅で暮らし続けていくためには、地域の人と人とのつながりや支え合いなどが不可欠。地域が本来持っている力を見直すきっかけになれば」と助成事業を申請しました。そして地域住民や関係者へ理解を呼びかけて、住民が中心となり事業所・行政・社協等と協働して地域づくりを考える『加治木たすけあい実行委員会』の取り組みがはじまりました。はじめは委員会の中でも「なぜ介護保険の一民間業者が地域づくりを？」と不信がられたりしましたが、話し合いや、住民による地域づくりの先進地視察を通して、自分たちの暮らしは行政や制度ばかりに頼るのではなく、自分たちで考えよう、という思いが委員会の中で高まっていきました。



加治木たすけあい実行委員会

構成 行政、地域包括支援センター、社協、自治会、長寿会、民生委員、他
事務局 共生ホームよかあんべ
委員長 加治木町在住の 鹿兒島女子短期大学久永繁夫教授

平成20年度（活動の経緯）

- 6月 準備会の開催
近隣の方々へのアンケート実施
- 7月 第1回委員会
- 8月 健康づくり講座の開催
第2回委員会
- 9月 熊本県山鹿市視察
第3回委員会
- 10月 萩原地区長寿会の方々との
福祉マップづくり
- 12月 第4回委員会開催
認知症サポーター養成講座
- 2月 萩原地区長寿会研修会
- 3月 第5回委員会
「地域づくりセミナー」の開催

人と人をつなぐ「私の○○マップ」

具体的な取り組みとして実施したのが、福祉マップづくりです。認知症の人が地域の中で暮らし続けるためには、地域資源（人・場所・付き合い）を活かし、つないでいくことが必要とされています。地域の現状を把握するため、萩原地区長寿会のみなさんと、『いまある地域資源』と『あったら助かる地域資源』を考える地域の福祉マップづくりに取り組みました。さらに地域を取材・調査し、住民の視点による福祉マップを作成。萩原地区全戸に配布されました。作成されたマップは「私の○○マップ」としてその人に必要な情報を書き込みできるようになっており、ゴミ収集所や病院、避難所等のほか、『地域の応援団』として、認知症サポーターや在宅福祉アドバイザー、地域の役員の住んでいる場所が、わかりやすくハートマークで表されています。



「地域の応援団」



誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり

活動の報告と啓発のために今年3月には『地域づくりセミナー』が開催されました。パネリストとして参加した町長からは、町も『地域の応援団』の養成を積極的に取り組みたいとの発言があり、その後7月には町主催の認知症サポーター養成講座が実施されました。「この取り組みによって、いろいろな立場の方が『誰もが最期まで安心して暮らせる地域』について主体的に考えてくれるようになったのが、大きな成果だった。」と事業を振り返る黒岩さん。「福祉マップづくりはあくまでもプロセス。これで終わりではなく福祉マップの活用や『地域の応援団』を増やしていくことで、人と人が紡ぎあい助け合える地域づくりをすすめていきたい。」誰もが安心して暮らせる地域づくりへの取り組みは、今はじまったばかりです。

認知症サポーターとは

認知症サポーター100万人キャラバンにおける「認知症サポーター養成講座」を受講した者で、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、暮らしやすい地域をつくっていく認知症の人への「応援者」。

平成21年5月末現在
全国のサポーター数

1,004,491名

